

# 安心できるまちをみんなで作る

熊野東防災交流センター記録誌 広島型建築プロポーザルの実践



令和3年5月  
広島県熊野町



# 目次

## 第1章 熊野町における防災

1.1 広島県熊野町の概要	
1) 広島県熊野町の概要	6
2) 「筆の都 熊野」の成り立ち【熊野町の歴史】	8
コラム 筆の町はなぜできたか	10
3) 熊野町における災害の歴史	12
1.2 災害のメカニズム	
1) 世界的な気候変動	14
2) 土石流のメカニズム	16
3) 中国山地の地盤リスク	18
コラム 教訓平成30年7月豪雨災害	20
1.3 災害への適応する計画	
1) 災害に強いまちづくりとしての施策	22
2) 東部地域の防災の考え方	24
東防災交流センター整備方針の策定	26

## 第2章 プロジェクトの進め方

2.1 広島と建築	
1) 広島に根づく建築の文化	30
2.2 地域文化を作る設計者選定	
1) くまもとアートポリス	32
2) 群馬県におけるプロポーザル	34
コラム 日本におけるプロポーザルの歴史	35
2.3 広島で行われる建築事業	
1) 魅力ある建築物創造事業	36
2) 広島型建築プロポーザル	38
2.4 審査の過程	
1) 熊野東防災交流センター設計者選定	40
2) プロポーザルの審査過程	42
3) 二次審査に残った各案	44
4) 募集要項に対する各案の回答	46
5) 公開ヒアリングにおける主な質疑と総評	52

## 第3章 安心できる拠点へ

3.1 熊野東防災交流センターの提案	
1) プロポーザル案	58
3.2 みんなでつくるプロセス	
1) 案が発展していくプロセス	64
2) 基本設計案	66
3) 最終案	74
3.3 工事着工から完成まで	
1) 工事の歩み	80
2) 航空写真でみる工事の進捗	82
3) 完成写真	84
あとがき	88

# はじめに



広島県 熊野町長 三村裕史



平成30年7月豪雨により、町内で12名の尊い命が犠牲となりました。改めて、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

この未曾有の災害の経験から得られた教訓を地域や世代をこえて後世に伝えていくとともに、大切な命を守るために、自らの命は自ら守る「自助」、地域で共に支え合う「共助」、自治体等の公的機関が町民等を守る「公助」の理念のもと、協働により防災・減災に取り組むことの重要性を強く認識しました。

町民、事業者、関係機関及び町が防災・減災に対するより高い意識を持ち、それぞれの役割を十分理解し、町全体が協働して災害に強いまちづくりを実現するため、令和2年4月1日に「熊野町防災・減災まちづくり条例」を施行し、改めて、地域の皆様と防災・減災への取り組みの必要性とそれぞれの役割を再認識いたしました。

平成30年7月豪雨ののち、乳幼児のいる世帯やペット同行避難者の受け入れ、備蓄品の保管場所の確保など、避難所での様々な課題の解決に取り組むために、「防災拠点施設整備構想」を作成し、町内を西部、中央、東部の3つの地域に分け、それぞれに防災拠点施設を整備することを計画しました。その第1弾となるのが、この熊野東防災交流センターで、乳幼児世帯や高齢者への配慮をはじめ、ペット同行避難者の受け入れを可能とし、災害時でも施設の機能を保持することができるように、日本を代表する有識者の方々からご協力をいただき、プロポーザルを実施し、地域住民や児童、生徒とのワークショップを重ね、現在の施設となりました。

今後は、災害での逃げ遅れによる死者を出さないために、これらの施設を活用して、防災・減災に取り組むとともに、復旧・復興にも注力するとともに単なる原状回復に留めることなく、第6次熊野町総合計画の将来像に掲げる実現に向けて、創造的復興のまちづくりを進めて参ります。

引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、この施設整備に携わっていただいた方々に深く感謝申し上げます。

なお、記録誌は、今後の防災・減災に少しでもお役に立てればと作成したものですので、皆様にご活用頂ければ幸いです。

令和3年5月